

知的障がい教育校における研究活動の取組

「平成27年度ARA・SHI教育研究会」

～これからの特別支援教育の教育課程を考える～



全体会の様子

これからの特別支援教育の教育課程を考える「ARA・SHI教育研究会」を1月23日、荒尾市の熊本県立荒尾支援学校で開催し、県下の特別支援学校をはじめ、地域の小・中学校、県外から約180人が集まりました。

教科別の指導及び自立活動の公開授業、研究活動の紹介、兼ねて開催した学校改革プロジェクト支援事業モデル校成果報告、午後のパネルディスカッション、62事例の実践発表でポスターセッションを行いました。

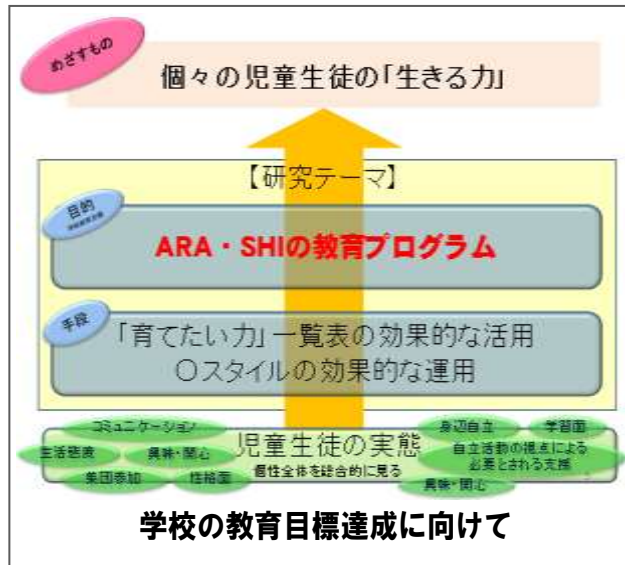
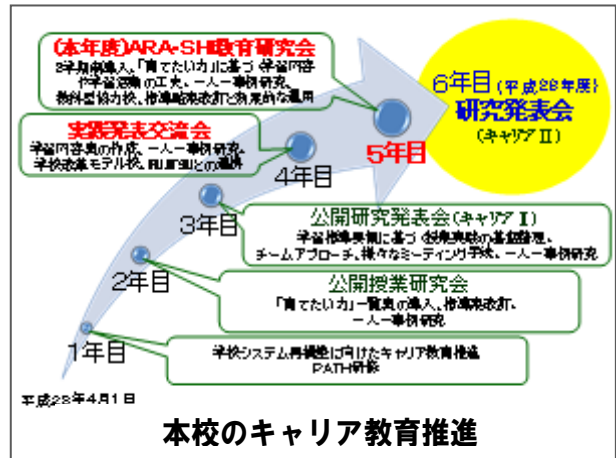
ARA・SHIとは 現在の校名荒尾支援学校の通称「荒支」です。児童生徒、保護者、その他関係者にも浸透しています。

本校の研究活動

平成29年1月21日には6年間の集大成となる公開研究発表会を開催

本校ではキャリア教育に関する実践研究に取り組みはじめて5年、教職員一人一人の授業力向上を目指した研究活動、チームアプローチを基盤に組織改革を進めています。平成24年度から公開授業研究会、公開研究発表会、実践発表交流会、ARA・SHI教育研究会と、この5年で4回の外部からの評価を得ながら地域、他校、関係諸機関とつなぐ教育を推進しています。

特に県内の特別支援学校は、地域の特別支援教育の核としての期待感も大きいものがあります。それに応えるためには、特別支援教育に携わる私たちがコンプライアンスとエビデンスを基盤に専門性の高い指導を行うとともに、地域とつなぐ教育を推進することが大切だと考えます。とりわけ本県における知的障害教育は大きな転換期にあり、今までの歴史と伝統を基盤に、過去から現在、そして明日へと「つなぐ」教育が問われています。断片的な教科指導をしていないか、自立活動の視点を踏まえているのか、系統性・発展性・子どもの発達の見点に立った授業を行っているか、全国共通の言葉で教育を語っているか、それを実証するのが教育研究であり、本校組織運営の柱となっています。



本校が研究しているキャリア教育

子どもたちには、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現するための力が求められています。この視点に立って日々の教育活動を展開することこそがキャリア教育の実践の姿です。

本校は小学部、中学部、高等部で構成され、12年間の学びをつなぐ学校です。そこでは、児童生徒の発達の段階にふさわしい教育を一人一人に長期・中期・短期の目標を設定したうえで推進・充実させることが求められます。

パネルディスカッション

明日のARA・SHIの教育課程を語る
～ “ つなぐ教育 ” をキーワードにして ～

これまでの5年間でキャリア発達というひとつの視点から児童生徒を捉え教育活動を行ってきた。その中で見えてきた組織的な対応、自立活動の充実、ノウハウや業務の合理化、効果的な授業評価や児童生徒の育ちの評価等の課題を、研究や児童生徒の育ちや学び、学部間連携、地域など様々な要素を“つなぐ”ことによって解決を図ろうとしている。

そこで、現在に至るまでの荒養・荒支の教育課程の変遷を知る4人のパネリストをお迎えし、「過去・現在の本校の歴史を知り、現在の特別支援教育に求められるもの、本校に期待するもの」についてリレートークを行いました。



特別支援教育を着実に推進

特別支援教育の歴史を眺めると、荒尾支援学校の確かな「つなぐ」取組が分かる。共生社会の実現に資する地域との連携協働、キャリア形成を支える「育てたい力」一覧表の創出、教員の研究修養を支える体制構築はこれまでの取組の成果である。



荒支の現場のイメージは

不易流行、風林火山、目配り・気配り

荒支は平成元年の10周年記念公開研究会での各教科等を合わせた指導での発表、平成12年での教科別の指導の導入、平成23年の学校システムの再考など荒尾支援学校のターニングポイントがあった。



ARA・SHIは土壌が肥え続けている

荒支には夢をもてる。その一つとしてユネスコスクールへの加盟がある。その理由は子どもを育てる要素と人材を育てる土壌ができていからである。キャリア教育と学校改革を掲げ、ポラリスに向かって発展し続けるARA・SHIであってほしい。



社会の変化と大きな挑戦

発達障害支援法、障害者総合支援法のもと、就労と生活のために教育と福祉の連携から、キャリア教育を導入したことは大きな挑戦であった。教育はたくさんのケースを抱えていて、一つの考えに偏ってはいけないのだという「学校を外から見る」視点が大事である。



実践発表の様子



専門性の向上



プレゼン力の向上



児童生徒作品展示

研究会を終えて

本校は、「児童生徒のキャリア発達を支えるARA・SHIの教育プログラム～学習内容表の作成と学習評価の工夫～」をテーマに掲げ、研究2年が経ちます。毎年20人以上の職員異動がある中で、研究推進を停滞させることなく進めるには、職員全体の共通理解が必要不可欠です。今回のパネルディスカッションでは、これからの特別支援教育の教育課程を考える場としました。本校がこの5年間に取り組んできた研究についてだけでなく、特別支援教育の歴史的流れや地域の小・中・高等学校等における特別支援教育についてもご意見をいただくことができました。

事後のアンケートからも、本校の取組を通して本県の特別支援教育の変化を感じられていること、参加いただいた先生方の学校にどのように取り入れていこうかと考えられていることが伝わってきました。

平成28年度を総括の年と位置付け、これまでの歩みと今回実施した「平成27年度ARA・SHI教育研究会」から見えた授業改善や教育課程の編成に向けた指導・助言をしっかり受け止め、研究を推進していきたいと考えています。